令和７年度　地域連携推進会議　議事録

<table>
<tr><td>事業所名</td><td colspan="3">障害者支援施設　たまきな荘</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">令和７年１０月２３日（木）　14:30～15:30</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="3">たまきな荘　会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="8">出席者</td><td>構成員</td><td>人数</td><td>備考</td></tr>
<tr><td>事業所職員</td><td>5</td><td>金和施設長、髙田事務局長、平川部長、木本主任、月田生活支援員</td></tr>
<tr><td>入居者</td><td>2</td><td>A 様、B 様</td></tr>
<tr><td>入居者ご家族</td><td>1</td><td>C 様</td></tr>
<tr><td>地域の関係者</td><td>2</td><td>作見嘉一朗様、吉永隆憲様</td></tr>
<tr><td>福祉に知見を有する方</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>経営に知見を有する方</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>市町村担当職員</td><td>1</td><td>平田光紀様</td></tr>
<tr><td>議題</td><td colspan="3">入所施設は外部から見えにくい構造になっているため、地域を代表する方々に来ていただき、利用者や職員と話し、施設内を見学して意見交換することで透明性を高めることを目的とし、率直な意見交換を通じて、ケアの質の向上や利用者の権利擁護を図りたい。</td></tr>
<tr><td>協議内容・意見等</td><td colspan="3">１．施設・地域の連携（金和施設長・平川部長）<br>【概況】たまきな荘は、昭和 47 年 9 月に開設され、現在 53 年が経過している。定員 70 名で、様々な職種（管理医、看護師、サービス管理責任者、事務員、管理栄養士、生活支援員、理学療法士、歯科衛生士など）のスタッフが支援を行っている。食事は日清医療食品に業務委託しており、施設職員の管理栄養士が利用者の栄養面で細かな指示を行い給食が提供されている。常勤換算で 63.5 人、実人員では 71 人の職員が働いている。入居者は身体障害者が中心だが、制度変更により精神障害や知的障害の方も受け入れるようになった。平均年齢は 66.9 歳と高齢化が進んでおり、全介助の方が多い特徴がある。医療的ケアが必要な方も多く、看護師のほか認定特定行為業務従事者の研修を受けた職員が対応している。<br>【事業計画】2014 年に日本が批准した障害者権利条約に基づき、保護から自己実現支援へと方針が変化している。個別の意思決定支援を基礎とし、本人の希望を尊重しながらも、生命や生活に重大な悪影響を及ぼす場合は慎重に対応している。災害や感染症に強い組織作りを目指し、入所定員も 110 名から 70 名へと減員させる一方、ショートステイの枠を増やしている。地域の一員としての活動や、個別支援の重視、人権・人格への配慮、科学的根拠のあるケア、地域の安心を担う取り組み（福祉避難所、自主避難所、指定福祉避難所の検討）などを進めている。<br>・利用者の地域活動状況について<br>　コロナ禍を経て、施設が企画する行事から利用者の個別ニーズに応じた支援が増加している。荒尾市の「のばらさん」というお祭りや玉名市の高瀬裏川菖蒲祭りなどへ参加（写真をスライドショーで紹介）し、地域の方々との交流や合理的配慮の提供などが進んでいると感じた。<br>２．経営状況について（高田事務局長）<br>　法人全体で 124 名の職員（正職員 86 名、非常勤 38 名）が働いており、女性が 90 名と 7 割以上を占めている。介護職の平均年齢は 48.11 歳と高めで、中途採用が多い状況。理事・評議員は施設長以外、全て外部の方で構成されており、透明性を確保している。令和 6 年度の決算では約 8 億円の収入に対し約 7 億 4000 万円の支出で、4600 万円程の黒字となった。</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | ３．BCP（事業継続計画）について（木本主任）<br>　自然災害や火災、感染症などの緊急事態に備え、地震・水害と、感染症それぞれの BCP を作成している。職員向け研修会のほか、毎年 6 月に地域の区長を招いた防災訓練を実施し、自主避難所運営や炊き出し訓練、非常用 LP ガス発電機の見学・説明などを行い、地域の方々からのご意見もいただきながら、地域とのつながりの大切さを再確認している。<br>４．利用者の権利擁護（高田事務局長）<br>　職員の行動規範を整備し、研修会への参加や法人内研修による周知を行っている。意見箱の設置や毎月第 2 水曜日の生活相談、随時の相談対応など苦情解決システムを運用しており、第三者委員も設置している。令和 7 年度は 7 件の苦情（入居者間トラブル 4 件、職員対応 3 件）があり、ほぼ全て解決した。事故・ヒヤリハット報告も適切に管理し、改善に向けた対応を協議している。<br>５．意見交換<br>・給食は業務委託をされているが、その会社は全国展開をされているのか地元の会社なのか知りたい。（平田様）<br>⇒全国展開している会社で食材や非常食も扱っていること、様々な食事形態や栄養面での対応が可能であること、毎年契約を更新している。たまきな荘には体育館があり、冷暖房完備で高台に位置しているため、地域の避難場所となっている。非常発電設備（LP ガスで 3 日分）や非常食の備蓄（入居者数に加え職員・地域住民合わせて 50 名程度、3 日分）があり、定期的に見直しを行っている。<br>・市役所近くに地域福祉交流館「FindingR」を建設し、フードパントリーや不登校児童の居場所支援、障害者の就労支援カフェ「風工房」などを運営している。備蓄品の期限が近づいたものをフードパントリーで活用したり、地域の農家や店舗から食材の提供を受けたりするなど、地域との循環的な関係づくりを進めている。<br>・今後の施設の課題として、4 人部屋が多く個室化が難しい。建物は全面改修から 27 年経過しており、あと 10 数年で建て替えが必要となるため、その間の対応として病院のような仕切りの設置を検討している。また、入居者の多様化に伴い、様々な障害や考え方を持つ方々の共同生活における理解促進が課題となっている。<br>・これまで関わる中で雰囲気が良く施設の姿勢が柔らかくて良いと思っている。また苦情の内容にも変化があり以前はハード面に関することだったが、今は人とのかかわりの事が多くあり難しくなってきた。（作見様、吉永様）<br>・AI などの技術を活用して事務処理を簡略化し、人が人に対してすべきことに集中できる環境づくりを進めている。平田様からは、地域共生社会の実現に向けた取り組みへの期待が述べられた。<br><br>※地域連携推進会議終了後、施設見学を実施。南棟と北棟の食堂や居室等をご案内する。居室等に備えられている福祉機器についても説明を行った。 |